

## 職員団体との交渉の議事要旨

(開催日時)

令和4年3月17日(木) 16:00~17:00(60分間)

(開催場所)

室蘭開発建設部1階中会議室

(出席者)

当局側(室蘭開発建設部)

篠宮 章浩(室蘭開発建設部長)、相馬 教宏(室蘭開発建設部次長)、木曾 文宏(総務課長)、福島 志乃(総務課長補佐)

職員団体側(全北海道開発局労働組合室蘭支部)

島 一雄(執行委員長)、河江 亮一(副委員長)、猪狩 光恵(書記長)、瀧口 浩敏(執行委員)

(議題)

1 当部における超過勤務の縮減について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、取り決めた交渉議題について回答(別紙のとおり)

(発言概要)

【議題1: 当部における超過勤務の縮減について】

(職員団体) 超勤が減らない要因として、業務過多、人員不足との意見があるが、当局として、どう対処するのか。

(当局) 定員削減が続く中でも業務の効率化を図り、管理者に対しては業務の進行管理や事前申告の徹底について指導している。

(職員団体) 管理者は単に超勤の上限を超えないように声を掛けるだけで、具体的な縮減策が何もないという意見について、どう考えるか。

(当局) 時間ありきの指導では何の解決にもならないと考えており、超勤の事前申告の際、職員と十分にコミュニケーションをとり、業務状況や他に方策が無いかを十分確認した上で、超勤を命じるよう管理者を指導しているところであり、引き続き、会議等の場で管理者を指導していきたい。

(職員団体) サービス残業は社会的な問題になっており、あつてはいけない事だが、付度というより職場に言い出せない雰囲気があるように思う。超勤の縮減よりも、上限の数字を超えない事が目的になっているのではないか。

(当局) サービス残業は無いものと認識しており、職員が管理者に付度して報告しないということがあつてはならない。超勤時間を正確に把握しなければ、健康

管理上の配慮や、業務改善等が行えないため、適切な報告ができる職場環境づくりに努めるよう、引き続き、管理者を指導していきたい。

- (職員団体) 調査報告物について、意味や必要性が不明瞭、案件の重複が多いとの声があり、改善を求める。
- (当局) 課所長会議等で非効率な業務依頼はしないよう指示しているが、新たに把握した場合はあらためて指導したい。

※文責は室蘭開発建設部当局（今後修正があり得る）